

2023年3月期 第1四半期

クリモトグループ決算説明資料

The logo for KURIMOTO, featuring the word "KURIMOTO" in a bold, blue, sans-serif font. The letter "K" is stylized with a red horizontal bar extending from its left side.

目次

1. 2023年3月期 第1四半期実績

2. 2023年3月期 業績予想

3. トピックス

4. 株主還元

5. 会社概要

参考資料

1. 2023年3月期 第1四半期実績

1 - 1 決算概要

(単位：百万円)

<連結>

	2022.3 1Q 実績		2023.3 1Q 実績		前年比 (B-A)	2023.3 直近予想値※	
	(A)		(B)			(C)	
売上高	21,686	-	25,020	-	3,334	115,000	-
営業利益(率)	41	(0.2%)	773	(3.1%)	732	4,500	(3.9%)
経常利益(率)	12	(0.1%)	715	(2.9%)	702	4,500	(3.9%)
四半期純利益(率)	10	(0.0%)	556	(2.2%)	545	3,200	(2.8%)

※期初予想値 (C) : 2022年5月13日公表

売上高

官需分野においては販売子会社が増収、民需分野も新型コロナウイルス感染症による投資の手控えに底打ち感が見られ出荷増となり増収。トータルで前年同期比 3,334百万円の増収。

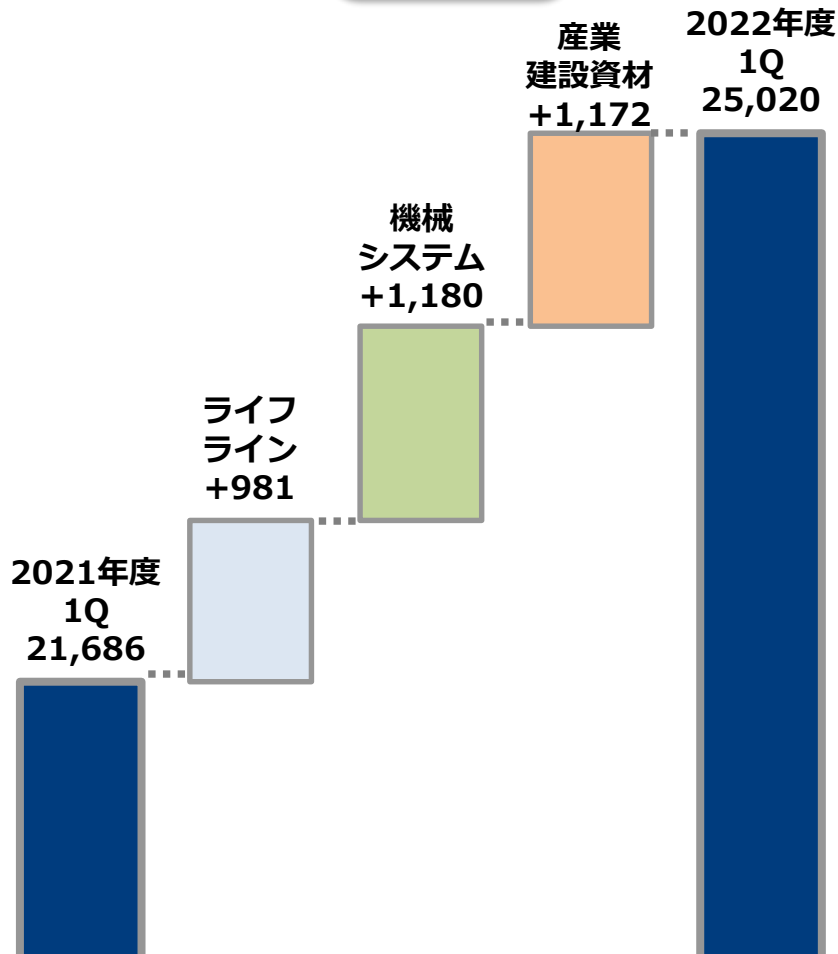
営業利益

売上高増加にともなう粗利益増加などにより、前年同期比732百万円の増益。

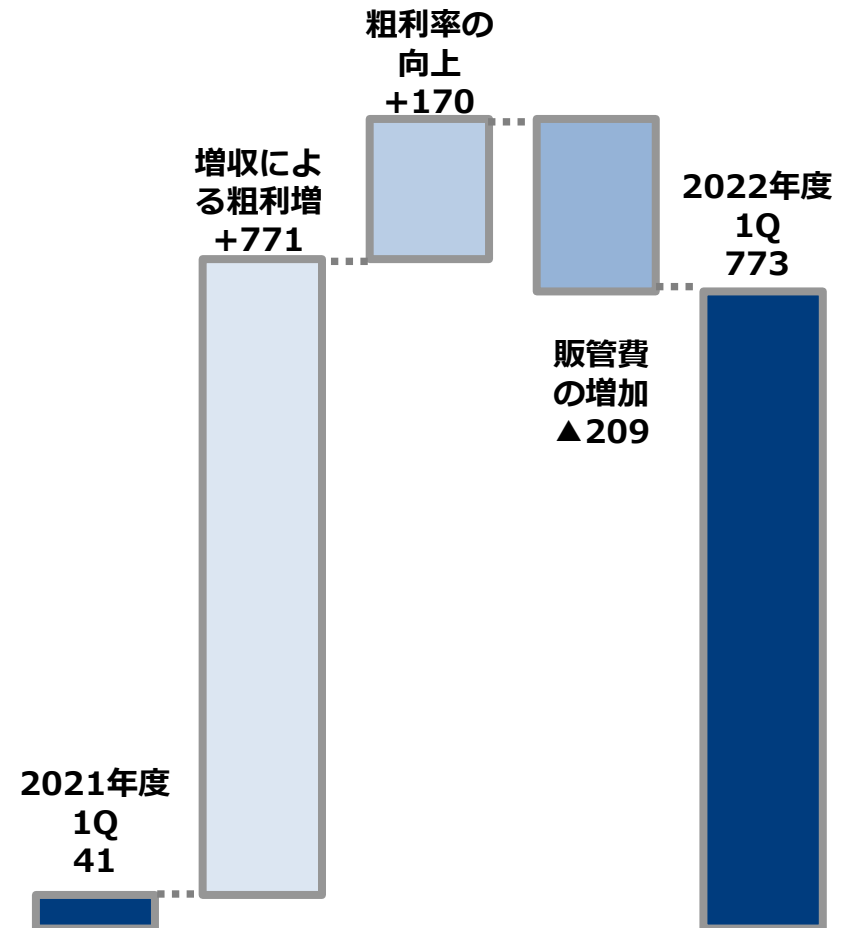
1 - 2 売上高・営業損益比較

(単位：百万円)

売上高



営業利益



1 - 3 セグメント別業績

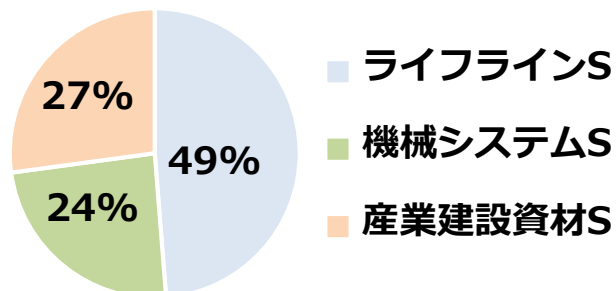
(単位：百万円)

		2022.3 1Q 実績 (A)	2023.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)
ライフライン セグメント	売上高	11,155	12,136	981
	営業利益	274	447	172
	(率)	(2.5%)	(3.7%)	(1.2pts)
機械システム セグメント	売上高	4,822	6,002	1,180
	営業利益	▲ 179	108	288
	(率)	(▲3.7%)	(1.8%)	(5.5pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	5,708	6,881	1,172
	営業利益	69	234	164
	(率)	(1.2%)	(3.4%)	(2.2pts)

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

セグメント別売上高構成比率

※参考



P26 参考資料1 セグメント別四半期業績推移 (連結)

※2023.3 1Q 実績 (連結)

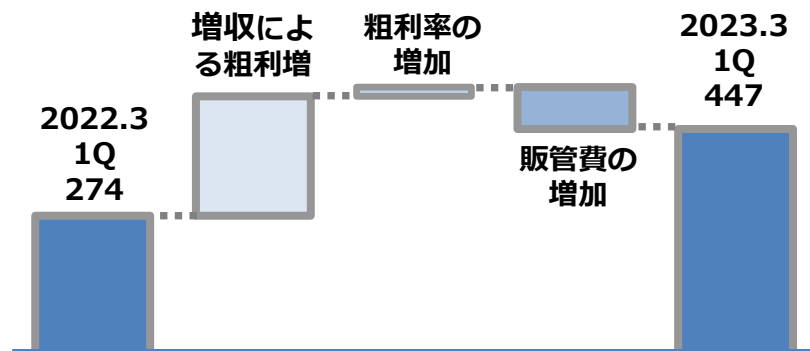
1 - 4 事業セグメント別概況

ライフラインセグメント

(単位：百万円)

	2022.3 1Q 実績 (A)	2023.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2023.3 計画値 (C)
売上高	11,155	12,136	981	55,700
営業利益	274	447	172	2,800
(率)	(2.5%)	(3.7%)	(1.2pts)	(5.0%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

販売子会社が増収、パイプシステム部門はじめ国内公共事業関連の官需分野の需要は底堅く前年同期比981百万円の増収

営業利益

原材料価格の高騰の影響はあったものの、パイプシステム部門の増収などにより前年同期比172百万円の増益

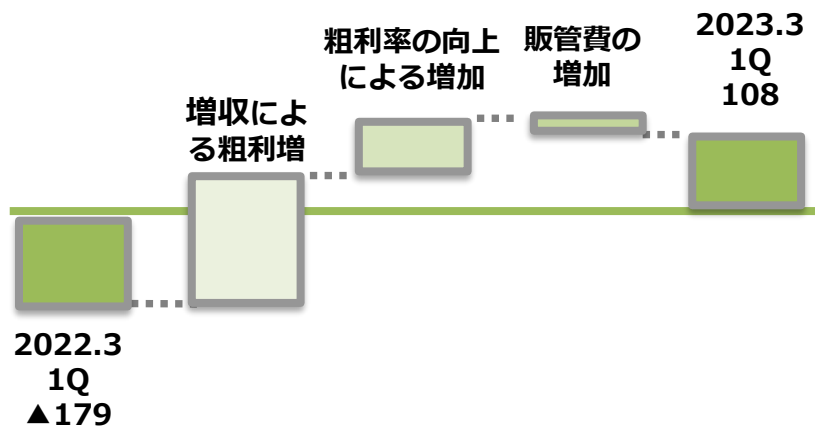
1 - 4 事業セグメント別概況

機械システムセグメント

(単位：百万円)

	2022.3 1Q 実績 (A)	2023.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2023.3 計画値 (C)
売上高	4,822	6,002	1,180	29,500
営業利益	▲ 179	108	288	1,000
(率)	(▲3.7%)	(1.8%)	(5.5pts)	(3.4%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

機械部門においてメンテナンス事業の売上が増加、素形材部門においては破碎機、ポンプの出荷が増加したことなどにより、前年同期比1,180百万円の増収

営業損益

機械部門、素形材部門がともに増収となった影響などにより、前年同期比288百万円の増益

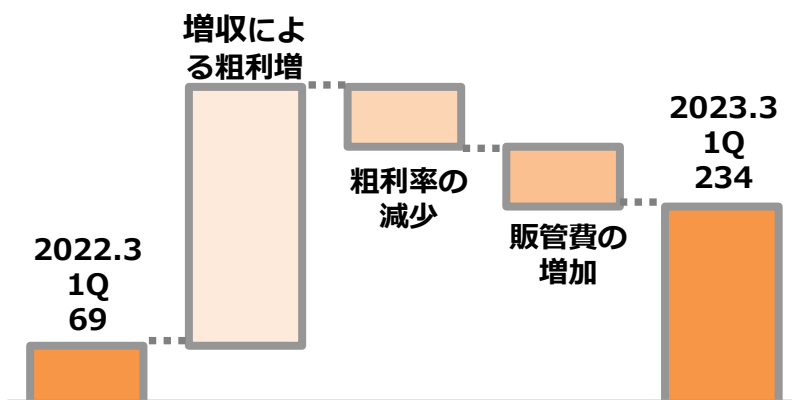
1 - 4 事業セグメント別概況

産業建設資材セグメント

(単位：百万円)

	2022.3 1Q 実績 (A)	2023.3 1Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2023.3 計画値 (C)
売上高	5,708	6,881	1,172	29,800
営業利益	69	234	164	700
(率)	(1.2%)	(3.4%)	(2.2pts)	(2.3%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

建材部門において空調製品、土木製品が、化成品部門においては下水道向け製品、注力分野であるFRP製検査路の出荷が増加したことなどにより、前年度比1,172百万円の増収

営業利益

原材料価格の高騰の影響があったものの、建材部門、化成品部門がともに増収となった影響などにより、前年度比164百万円の増益

2. 2023年3月期 業績予想

2 - 1 2023年3月期 業績予想

(単位：百万円)

連結	2022.3 実績 (A)		2023.3 予想 (B)		前年比 (B-A)	
売上高	105,954	-	115,000	-	9,046	-
営業利益(率)	4,172	(3.9%)	4,500	(3.9%)	328	(▲0.0pts)
経常利益(率)	4,179	(3.9%)	4,500	(3.9%)	321	(▲0.0pts)
当期純利益(率)	2,917	(2.8%)	3,200	(2.8%)	283	(0.0pts)
ROE (率)	-	(4.5%)	-	(4.8%)	-	(0.3pts)

当社グループの主要事業セグメントは官需分野で底堅く、民需分野においても新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えから機械部門を中心に回復傾向にあり、増収増益の見込み。

2-2 2023年3月期 業績予想 (セグメント別)

(単位：百万円)

連結		2022.3 実績 (A)	2023.3 予想 (B) ※1	前年比 (B-A)	2023.3 中計当初計画 (C) ※2	計画修正 (B-C)
ライフライン セグメント	売上高	57,478	55,700	▲ 1,778	54,300	1,400
	営業利益	3,016	2,800	▲ 216	2,500	300
	(率)	(5.2%)	(5.0%)	(▲ 0.2pts)	(4.6%)	(0.4pts)
機械システム セグメント	売上高	22,095	29,500	7,405	28,600	900
	営業利益	437	1,000	563	700	300
	(率)	(2.0%)	(3.4%)	(1.4pts)	(2.4%)	(1.0pts)
産業建設資材 セグメント	売上高	26,381	29,800	3,419	32,100	▲ 2,300
	営業利益	1,040	700	▲ 340	1,300	▲ 600
	(率)	(3.9%)	(2.3%)	(▲ 1.6pts)	(4.0%)	(▲ 1.7pts)

ライフラインセグメント：北海道での震災復興事業終了、原材料費の高騰の影響などにより、減収減益の見込み

機械システムセグメント：新型コロナウイルス感染症による一時的な投資手控えからの回復などにより、増収増益の見込み

産業建設資材セグメント：道路橋梁分野、消音分野での売上増を見込むが、原材料高騰、工事部門での前年度好業績の反動により増収減益の見込み

※1 2022年5月13日現在の予想数値

※2 2021年5月27日公表「新中期3カ年経営計画」

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

2-3 中期3カ年経営計画（定量目標）

（単位：百万円）

	2020年度 (実績)	中期3カ年経営計画				
		2021年度			2022年度	2023年度
		(計画)	(実績)	(差異)	(計画)	(計画)
売上高	116,596	107,000	105,954	▲ 1,046	115,000	120,000
営業利益	4,673	3,500	4,172	672	4,500	5,500
売上高 営業利益率	4.0%	3.3%	3.9%	0.6%	3.9%	4.6%
ROE	5.2%	3.6%	4.5%	0.9%	4.8%	5.4%

2021年度業績は目標とする「売上高1,070億円」「営業利益35億円」に対し、売上高は目標に届かなかったものの、営業利益は目標を上回る結果となった。主な要因は、売上高については、第4四半期に売上を予定していた案件の延期などの影響で、営業利益については、減収による粗利益減少、原材料費の高騰などの影響はあったものの、販売価格の見直し、製造原価でのコスト低減効果、工事案件での利益改善などが寄与した。

2022年度業績見込みは、当社グループの主要事業セグメントである国内公共事業に関連する官需分野の需要は底堅い事、民需分野においても機械部門を中心に新型コロナウイルス感染症による一時的な投資の手控えからの回復が見込まれる事から売上高1,150億円、営業利益45億円とし、中期3カ年計画での計画値のまま据え置く。

3. トピックス

3. トピックス

新型の油圧式コーンクラッシャ「プレンジコーン」の販売開始

生産性の向上

環状シリンダー機構を採用、破砕運転中に間隙（セット）を自動調整

小さなサイズで大きな能力

ワンサイズ小さな機種を選定が可能

メンテナンスの省力化

ウェッジロック機構、横軸駆動方式を採用



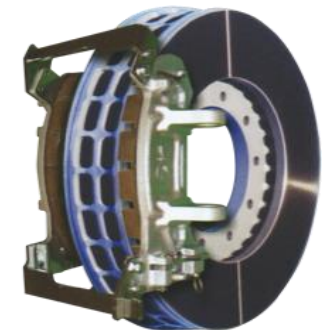
プレンジコーン

JR西日本様新型車両 227系に当社製ブレーキディスクが採用

鉄道車両に広く採用されている特殊鋳鉄NCM-Aブレーキディスクと、省メンテナンスホルダおよび専用ライニングも合わせて採用。

エリア : JR西日本様岡山・備後エリア

数量 : 404組



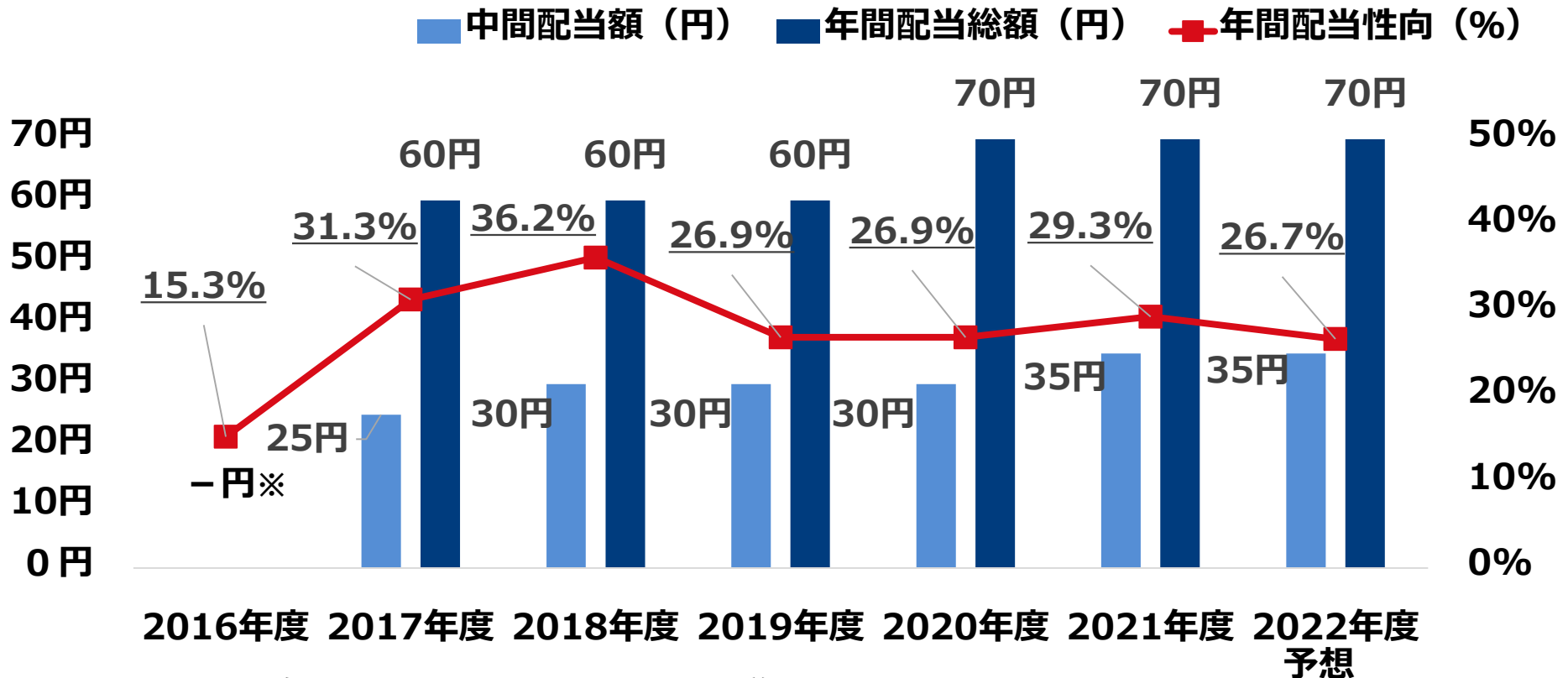
当社製ブレーキディスク
(イメージ)

4. 株主還元

4 株主還元に関する指標

成長投資とのバランスを鑑みながらステークホルダーの皆様の期待に応えるべく、配当性向30%超を目指しつつ、安定した株主還元を実施してまいります。

一株あたり配当額・配当性向推移(連結)



※ 2016年10月1日を効力発生日として当社普通株式について10株を1株に併合。
2016年度の年間配当額合計は単純に合算できないため「-」として表示しています。

5. 会社概要

5 - 1 会社概要



創立：
1909年2月2日（明治42年）

設立：
1934年5月10日（昭和9年）

代表者：
代表取締役社長 菊本 一高

資本金：
311億円（2022年3月末現在）

従業員数：
2,120名（2022年3月末現在、連結）
1,333名（2022年3月末現在、単体）

5 - 1 会社概要

事業所：

○工場・物流拠点（計13か所）

大阪府内4か所

滋賀県、茨城県など

○国内営業拠点（8か所）

大阪、東京、札幌、仙台、

名古屋、広島、福岡、沖縄

○海外拠点（2か所）

ヨーロッパ事務所（ドイツ）、

ジャカルタ事務所（インドネシア）

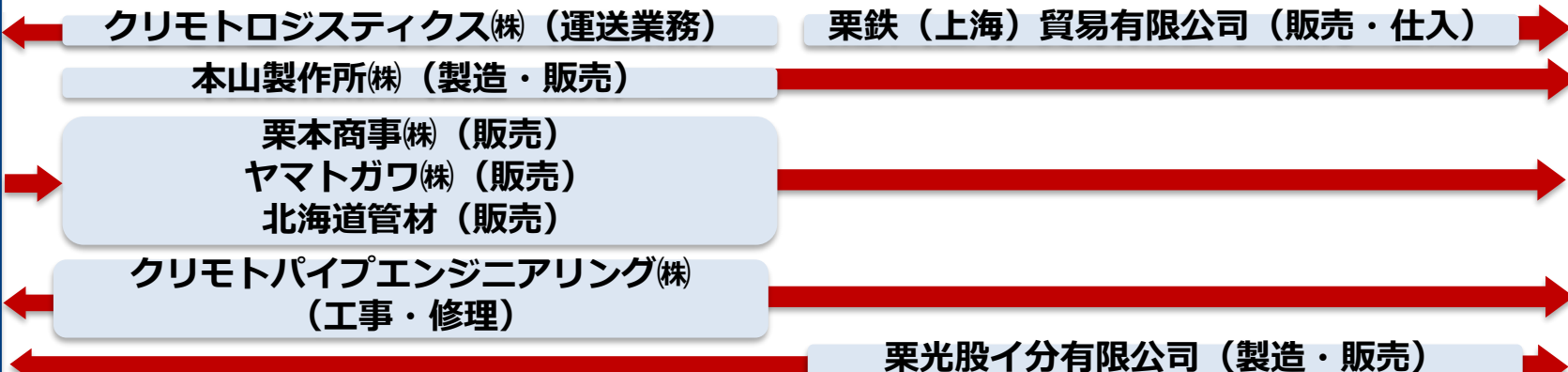


関係会社：

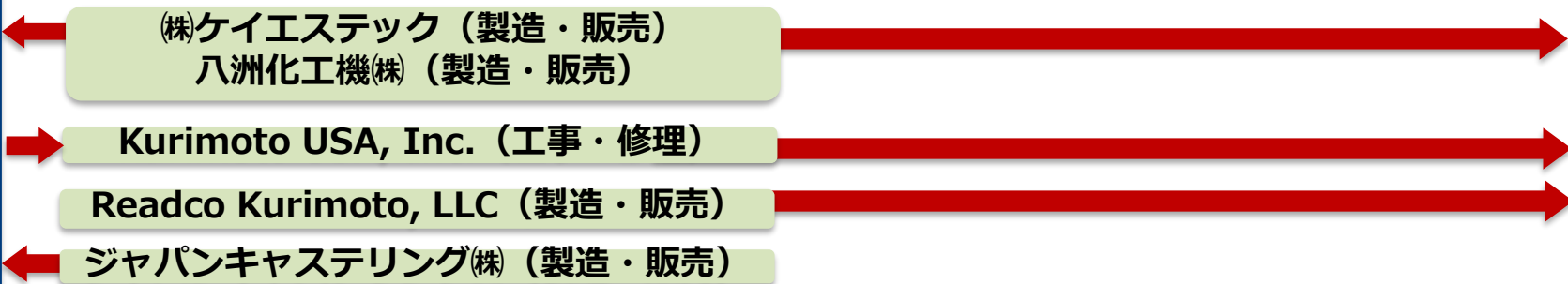
栗本商事(株)、ヤマトガワ(株)、(株)本山製作所、(株)ケイエステック、
 ジャパンキャストリング(株)、Readco Kurimoto、Kurimoto USA<米国>、
 栗鉄（上海）貿易有限公司<中国>など 計21社

5 - 1 会社概要

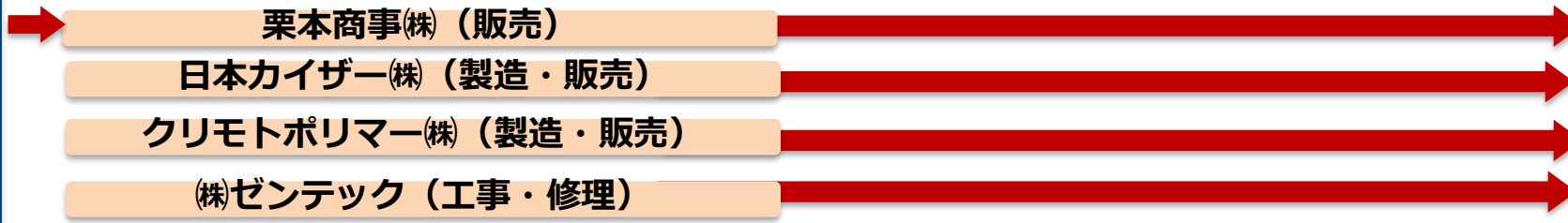
● ライフラインセグメント



● 機械システムセグメント



● 産業建設資材セグメント



当社

得意先

5 - 1 会社概要

経営理念

私たちは、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。
～社会インフラ・産業インフラへの最適なシステムの提供～

経営方針

「四方よし」の精神で将来にわたって、社会へ貢献できる企業グループを目指す。

5 - 2 事業ドメイン

社会 インフラ

上下水道、道路、通信、交通など
人・生活において基盤となる施設



メーカーの生産活動に必要な
機械、プラントなどの製造設備



産業設備

5 - 3 事業部門の構成と主な製品 (栗本鐵工所)

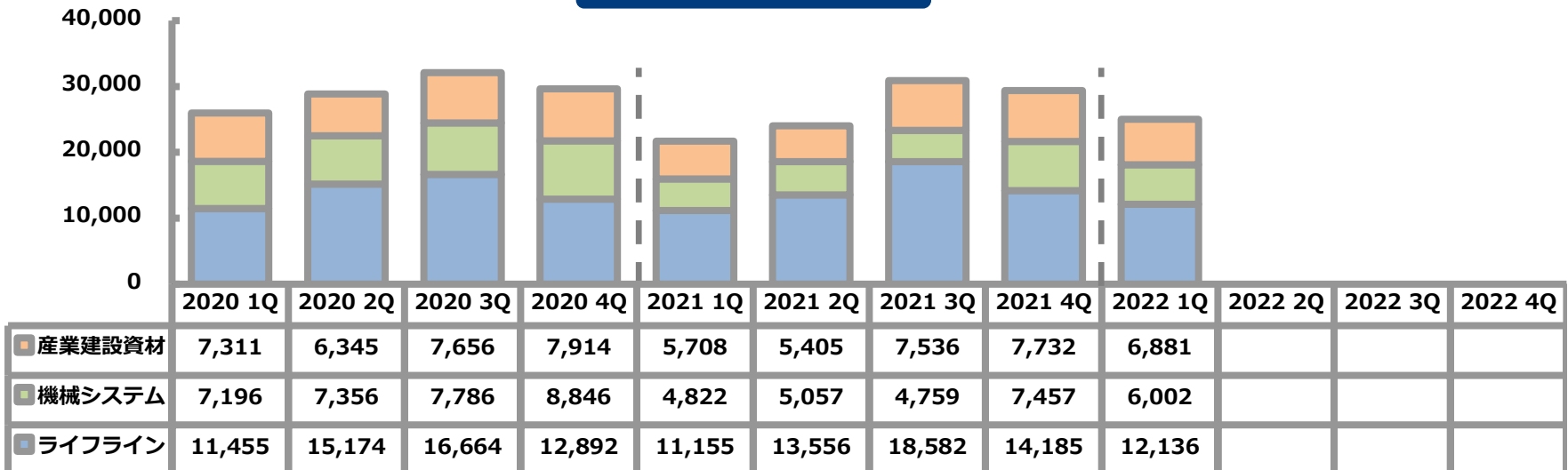
事業セグメント	主な事業ドメイン	事業部	主な製品	主な需要先
ライフラインセグメント		パイプシステム	ダクタイル鉄管類	水道事業者
		バルブシステム	水道用バルブ、産業バルブ	水道事業者、製鉄・電力等各種プラント、ポンプメーカー
機械システムセグメント		機械システム	鍛造プレス	自動車関連メーカー
			粉体処理機	カーボン、エンブラ、二次電池関連メーカー 他
			プラントエンジニアリング	各国の資源開発事業者 プラントエンジニアリング企業
		素形材エンジニアリング	耐磨耗鋳物、破碎機	鉄鋼、セメント、電力、砕石関連企業
産業建設資材セグメント		建材	建築資材	管材商社、空調設備業者、ゼネコン等
		化成品	FRP(M)製品	国・地方公共団体、電力会社、ゼネコン、フィルム関連メーカー

参考資料

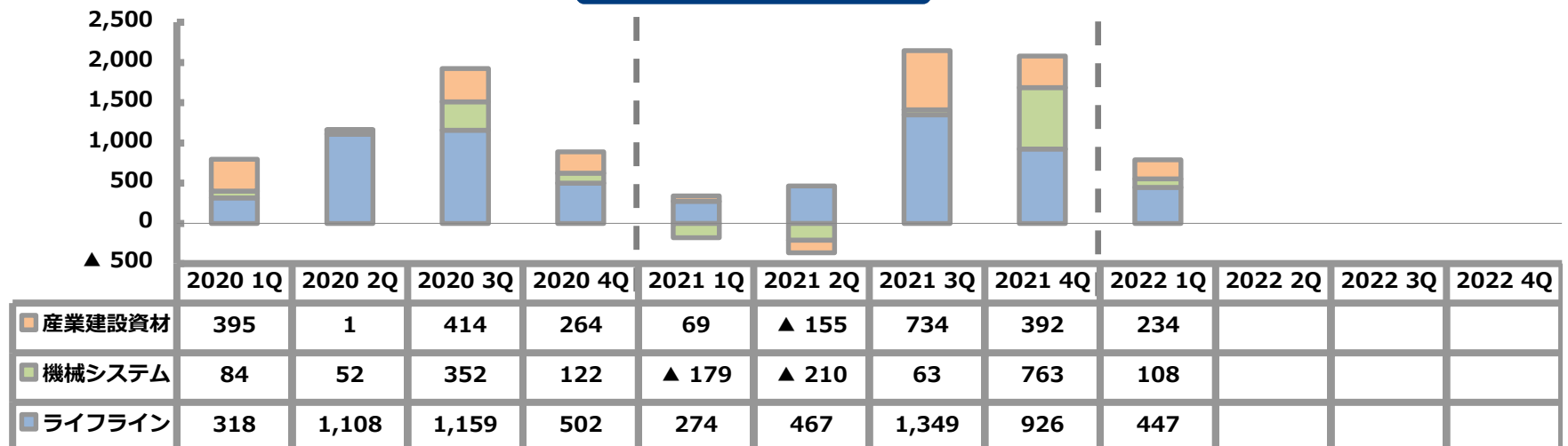
参考資料 1 セグメント別四半期業績推移 (連結)

売上高

(単位：百万円)



営業利益

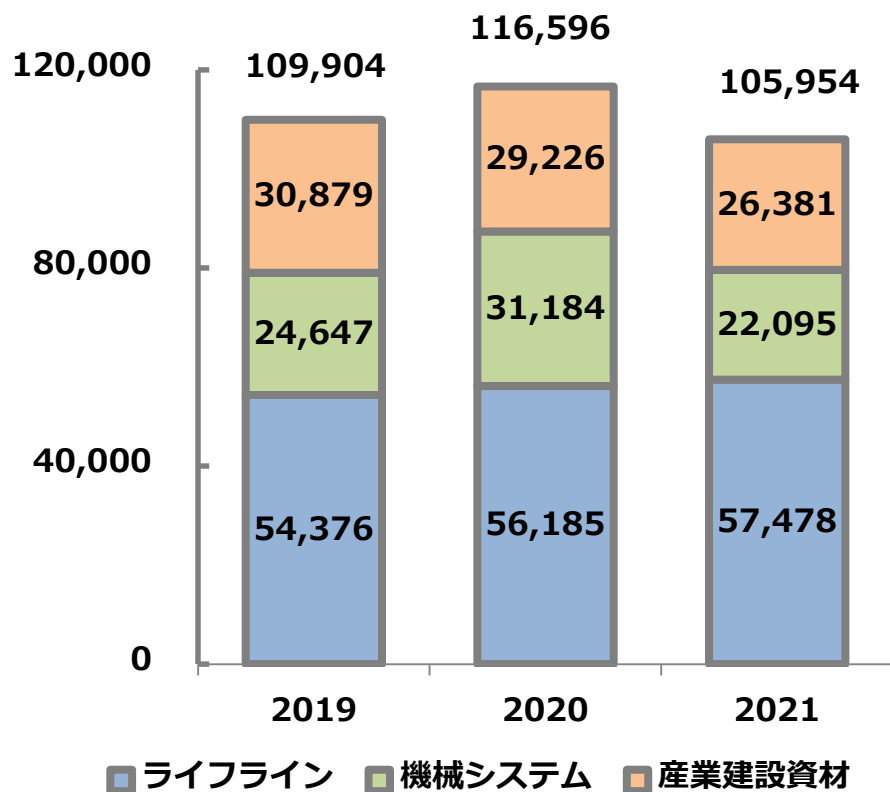


※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

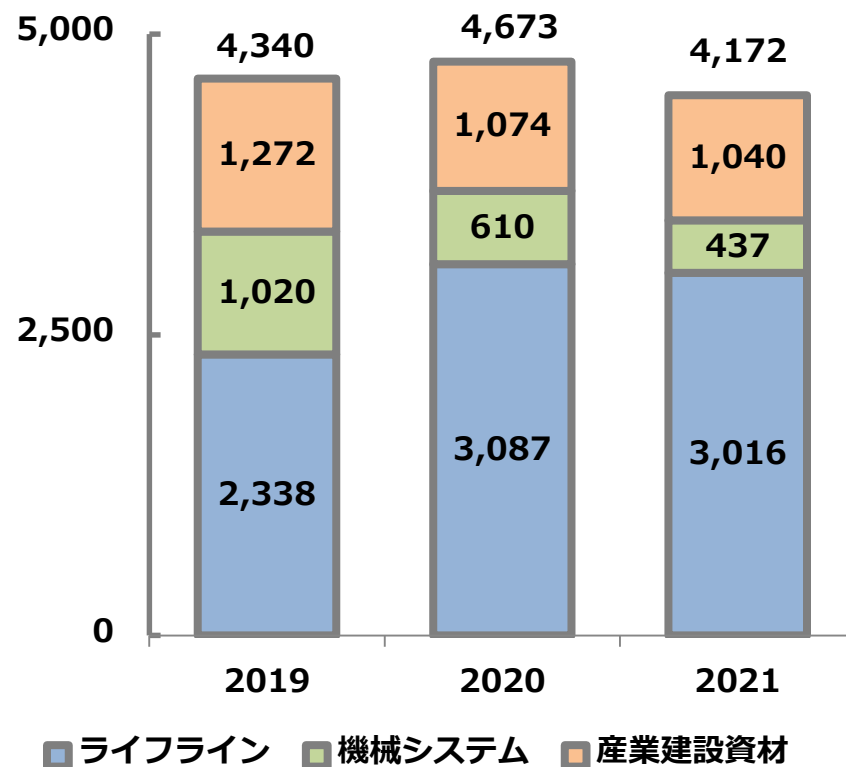
参考資料 2 セグメント別業績推移

(単位：百万円)

売上高

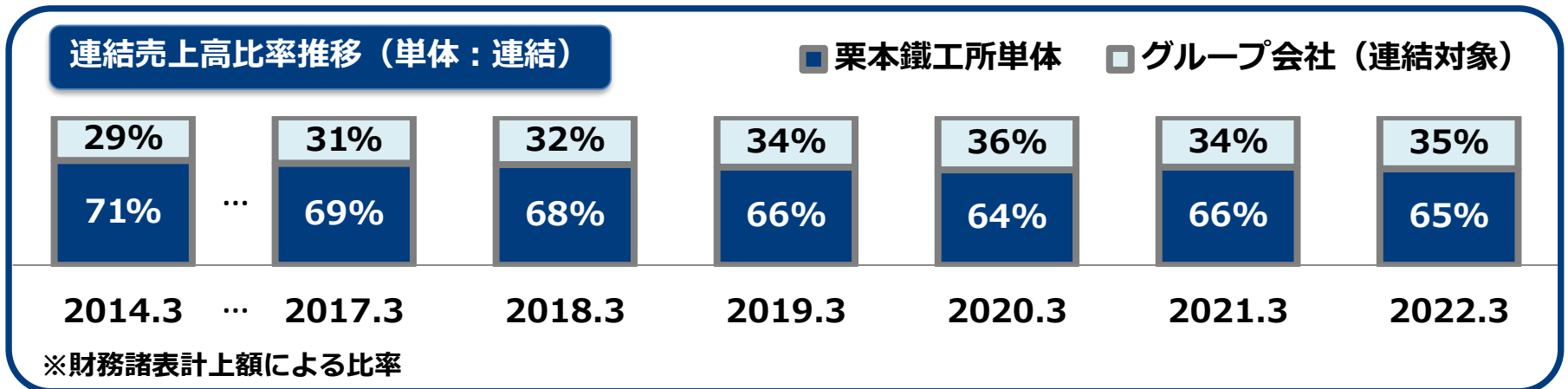
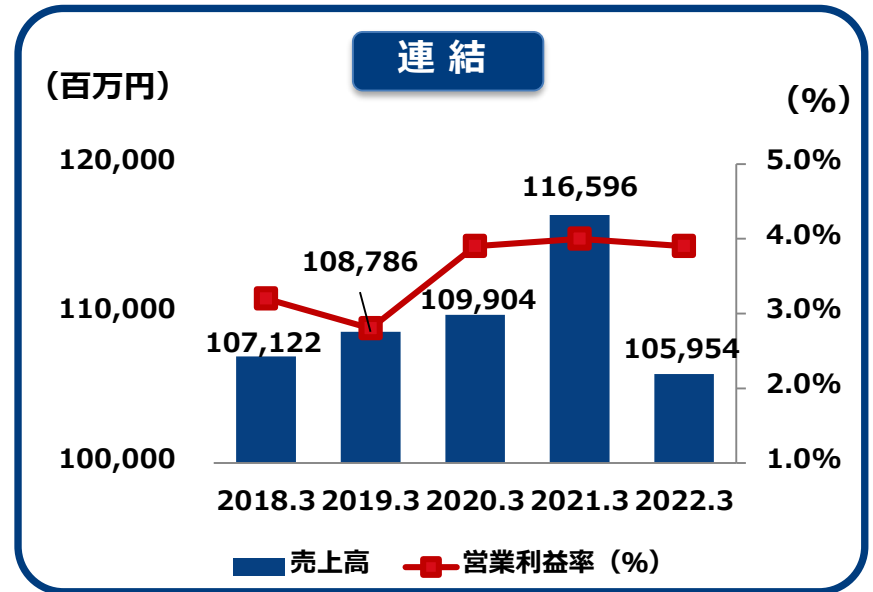
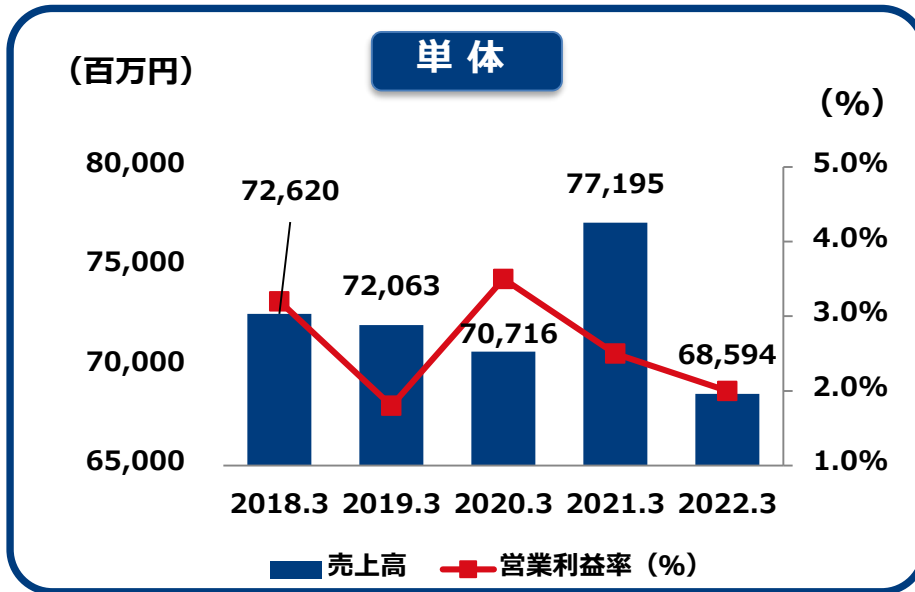


営業利益



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料 3 売上・営業利益率推移 (単体・連結)



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

問い合わせ先
株式会社栗本鐵工所 総合企画室
TEL:06-6538-7719
<http://www.kurimoto.co.jp/>

KURIMOTO